

拠出金名：日カリコム友好協力基金

国際機関等名	カリブ共同体 (英文名称・略称) Caribbean Community (CARICOM)					
種 別	国連(事務局)	国連(基金・計画)	国連専門機関	その他		
所轄官庁担当局課名	外務省中南米局カリブ室					
最近3年間の我が国支払額及び拠出率、ODA率						
	金 額				拠出率(%)	ODA率(%)
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2	レ ー ト	(注1)	
平成18年度	6,356	57		1\$= 111 円	(2006年) 100	100
平成17年度	7,062	66		1\$= 107 円	(2005年) 100	100
平成16年度	7,366	67		1\$= 110 円	(2004年) 100	100
拠出上位5ヶ国(2006年)			国際機関等の財源 (2006年度決算)			
	国 名	金額 (千ドル)	率(%)	当該年度の収入 57,000ドル		
1位	日本	57	100	当該年度の支出(注2)		
2位						
3位				会計検査機関名		
4位				DELOITTE & TOUCHE CHARTERED		
5位				ACCOUNTANTS		
備考：我が国の拠出のみによる基金			(現在の構成員の出身国：N/A)			
当該機関に対する我が国としての評価(当該国際機関の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)						
カリコム諸国14カ国とは基本的価値を共有しており、緊密な二国間関係を基盤に、国際捕鯨委員会(IWC)や国連等の国際場裡で友好的協力関係を構築している。カリブ地域においては、外交政策の共通ポジション形成努力、単一市場経済の推進、域内協力などの動きがあり、地域ブロック単位でも力をつけ、発言力を増している。このような地域国際機関の枠組みを活用してカリブ諸国との協力関係強化に取り組むことは、我が国の国際場裡における影響力の増大を図る上でも重要。また、対カリコム協力を通じて、カリコム各国への効率的な支援を行うことは有意義。カリコム側よりも機会ある度に本件基金を通じた日本の協力への謝意が表明されている。						
合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価						
カリコム事務局の機能強化はかねてからの懸案事項であった。カリコム設立30周年を迎えた2004年7月のカリコム首脳会議にて、カリコム事務局の機構改革が審議された結果、事務局長やその他の幹部ポストの機能強化・効率化が進められた。また、カリコム事務局本部は、ガイアナのジョージタウン市内の5カ所に分散していたが、2005年8月、新しい本部ビルの1カ所に移転。その他各種措置を含めた抜本的な組織改革により、カリコム事務局の機能強化・効率化が期待される。						
邦人職員数	1人	当該機関の職員数及び		301人		
うち幹部以上	うち 0人	邦人職員が職員全体にしめる率		0.3%		
邦人職員が占めている幹部ポスト						
ポストの名称		職 員 氏 名		備 考		
なし						
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画						
現在、上記邦人職員(JICA専門家)は、地域開発計画専門家として本基金運用主体たるカリコム事務局で我が国ODA案件形成・推進に従事するほか、本基金の活用・運営についても様々な形で支援を行っている。カウンターパートはカリコム事務局資源活用・技術協力部長。同人の任期終了後は、後任を派遣予定。						

(注1) 我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年(2004年～2006年)。

(注2) 用途は決定し、現在支出手続中。